

資料7 今後の学校規模の見通し

岩手県総務部

学区と高等学校の配置に関する地区割 (R2)

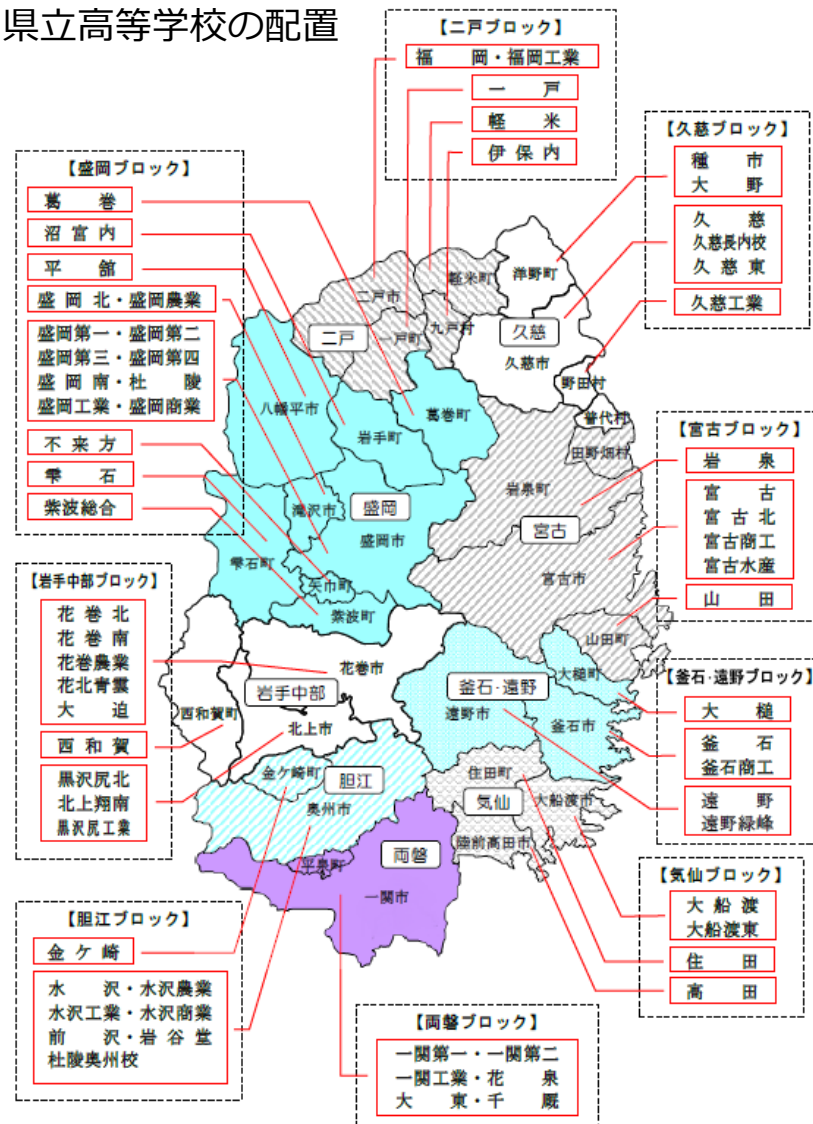
○普通科に適用する通学区域については、8学区を定めている。

○県立高校の配置について、通学距離等を考慮して、8学区を基とした9つのブロック単位で考えている。

■学区と高等学校の配置に関する地区割

学区	ブロック	ブロック内市町村	ブロック内の高等学校 (令和2年度)			
盛岡	盛岡	盛岡市	盛岡第一	盛岡第二	盛岡第三	盛岡第四
			盛岡南	杜陵(定・通)	盛岡工業(全・定)	盛岡商業
			盛岡市立			
			岩手	岩手女子	盛岡白百合	江南義塾盛岡
			盛岡誠桜	盛岡大学附属	盛岡スコール	盛岡中央(全・通)
		八幡平市	平館			
		滝沢市	盛岡北	盛岡農業		
		雫石町	雫石			
		葛巻町	葛巻			
		岩手町	沼宮内			
紫波町	紫波総合					
矢巾町	不来方					
岩手中部	岩手中部	花巻市	花巻北	花巻南	花巻農業	花北青雲
			大迫	花巻東		
		北上市	黒沢尻北	北上翔南	黒沢尻工業	専修大学北上
	西和賀町	西和賀				
胆江	胆江	奥州市	水沢	水沢農業	水沢工業	水沢商業
			前沢	岩谷堂	杜陵奥州校(定・通)	水沢第一
	金ヶ崎町	金ヶ崎				
両磐	両磐	一関市	一関第一(全・定)	一関第二	一関工業	花泉
			大東	千厩	一関学院(全・通)	一関修紅
	平泉町					
気仙・釜石	気仙	大船渡市	大船渡(全・定)	大船渡東		
		陸前高田市	高田			
		住田町	住田			
	釜石・遠野	釜石市	釜石(全・定)	釜石商工		
		遠野市	遠野	遠野緑峰		
	大槌町	大槌				
宮古	宮古	宮古市	宮古(全・定・通)	宮古北	宮古商工	宮古水産
		山田町	山田			
		岩泉町	岩泉			
		田野畑村				
久慈	久慈	久慈市	久慈	久慈長内校(定)	久慈東	
		洋野町	種市	大野		
		野田村	久慈工業			
		普代村				
二戸	二戸	二戸市	福岡(全・定)	福岡工業		
		軽米町	軽米			
		一戸町	一戸			
		九戸村	伊保内			

■県立高等学校の配置



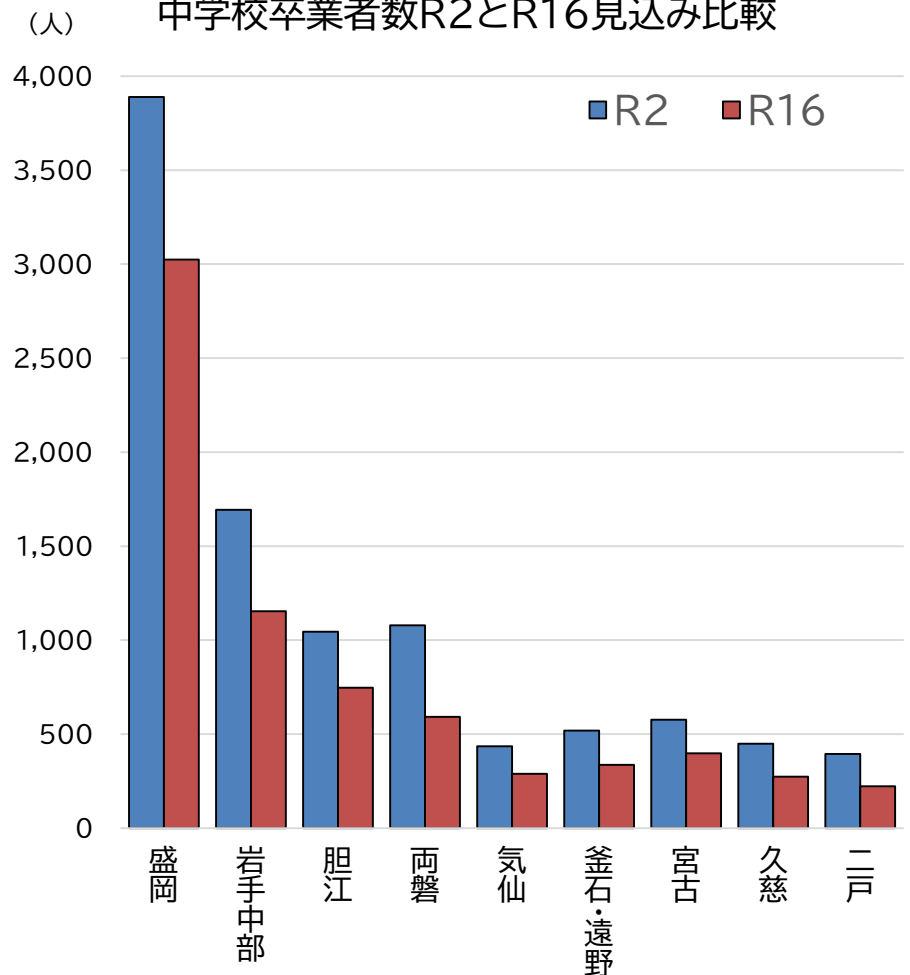
各ブロックの中学校卒業生数の推移

- 中学校卒業生数について、令和16年度に7,035人となる見込み(R2比▲3,047人、▲30.2%)。
- 本県の減少率(▲30.2%)は全国平均(▲17.3%程度)と比べて著しく大きくなる見込みであり、全ブロックで全国平均の減少率を上回る見込み(盛岡ブロックで▲22.2%)
- 各ブロックで見ると、両磐(▲45.2%)、二戸(▲43.5%)、久慈(▲39.2%)の減少率が高い。

■各ブロックの中学校卒業生数※2の推移

(単位:人、%)

	R2 ①	R7	R12	R16 ②	減少者数 ③ =(2-①)	減少率 ④ =③/①
盛岡	3,890	3,961	3,509	3,025	▲865	▲22.2
岩手 中部	1,694	1,590	1,394	1,153	▲541	▲31.9
胆江	1,045	1,072	918	747	▲298	▲28.5
両磐	1,079	926	752	591	▲488	▲45.2
気仙	436	378	349	289	▲147	▲33.7
釜石 ・遠野	518	446	422	336	▲182	▲35.1
宮古	576	484	484	398	▲178	▲30.9
久慈	449	427	351	273	▲176	▲39.2
二戸	395	350	275	223	▲172	▲43.5
合計	10,082	9,635	8,454	7,035	▲3,047	▲30.2



※ 令和3年5月1日現在の在籍生徒数等からの推定値

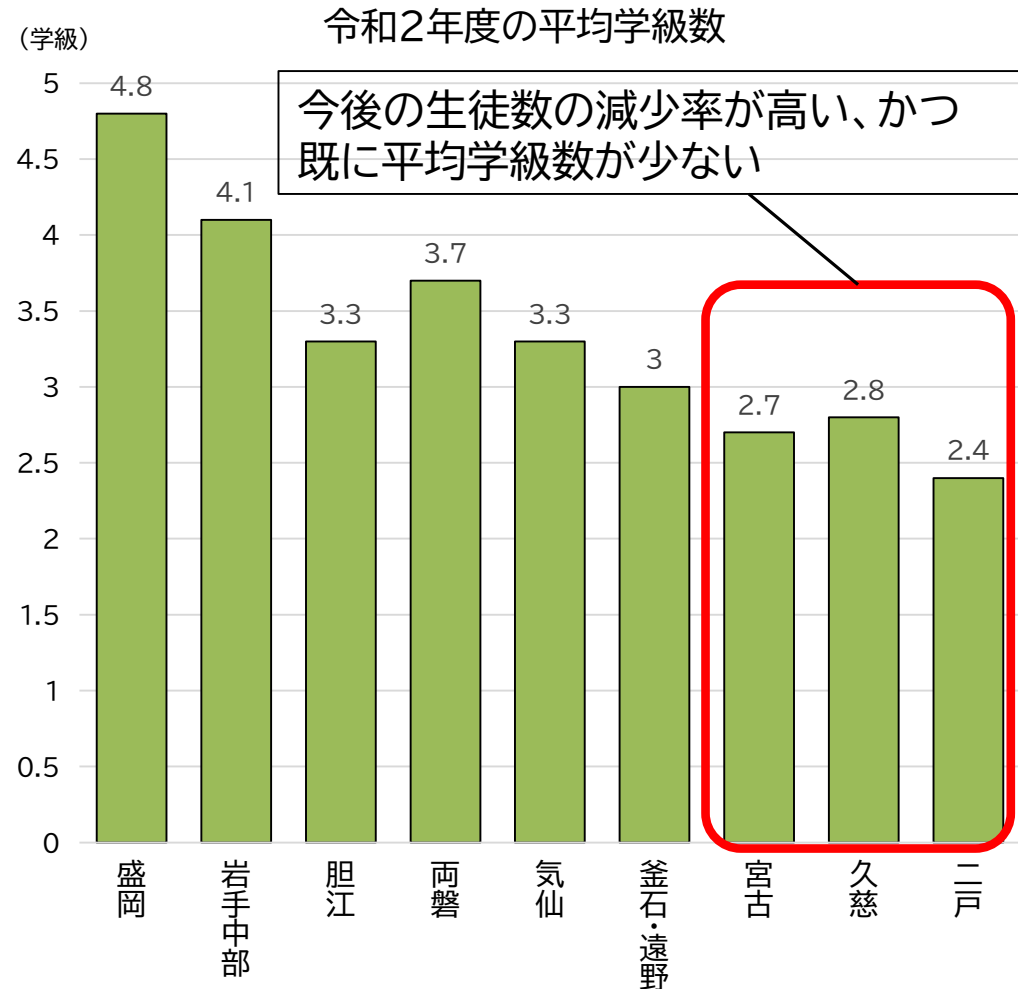
県立学校における各ブロックごとの学級数の状況

○本県では、再編計画の前期計画(H28～R2)において多様な教育活動を展開するための望ましい学校規模は、原則として、1学年4～6学級の学校規模が必要、教育の質を確保するためには、1学年2学級以上の学校規模が必要であるとしており、後期計画(R3～R7)においては、今後も3学級以下の小規模な高校が増加することで教育の質の確保が難しくなることが懸念されるとしている。

○各ブロックでみると、現時点で平均学級数が4学級を超えているのは、盛岡、岩手中部の2ブロックのみ。宮古、久慈、二戸ブロックは、3学級を下回っており、小規模校化が進んでいる状況にある。

令和2年度時点の各ブロックの学級数及び欠員数

	県立 学校数 ①	学級数 ②	平均 学級数 ③ =②/①	募集 定員	欠員数
盛岡	15	72	4.8	2,880	▲258
岩手 中部	9	37	4.1	1,480	▲171
胆江	7	23	3.3	920	▲193
両磐	6	22	3.7	880	▲72
気仙	4	13	3.3	520	▲111
釜石 ・遠野	5	15	3.0	600	▲178
宮古	6	16	2.7	640	▲184
久慈	5	14	2.8	560	▲151
二戸	5	12	2.4	480	▲151
合計	62	224	3.6	8,960	▲1,469



小規模校の現状と課題について①

○1学年3学級以下の学校では、生徒一人ひとりに対応したきめ細かな指導ができるメリットがあるものの、生徒の科目選択や部活動の選択の幅の確保に制約があること、習熟度別授業や少人数指導の実施は教員への負担が大きいなど、学習環境の整備、学びの質の維持のあたってさまざまな制約がある。

1学年1～3学級の小規模校の状況

	現状	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 学力差が大きいことから、習熟度別指導や学校設定教科・科目を設定する等進路に対応した少人数指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通教科における科目選択の幅が少ない。 生徒の文系・理系の希望状況によっては、混合クラスができるなどの制約が生じる。

【地歴・理科の例】

	A高校(2学級)	B高校(6学級)
地歴平均開設数	4.00科目	6.75科目
理科平均開設数	7.11科目	8.75科目
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 大学等への進学を目指す生徒に対応するため、地歴や理科では選択科目をできるだけ設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地歴と理科では、ほとんどの科目を設定している他に、学校設定科目を設定し、生徒がそれぞれの進路に合わせて幅広く学習できる環境を整えている。

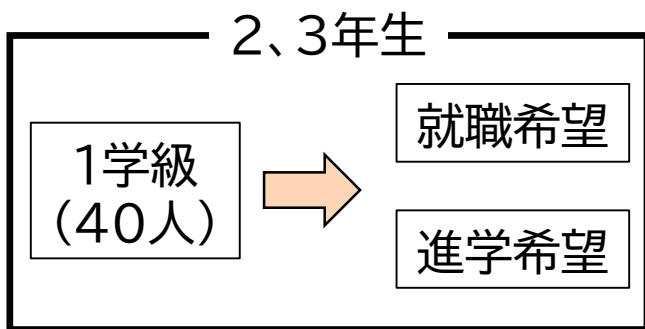
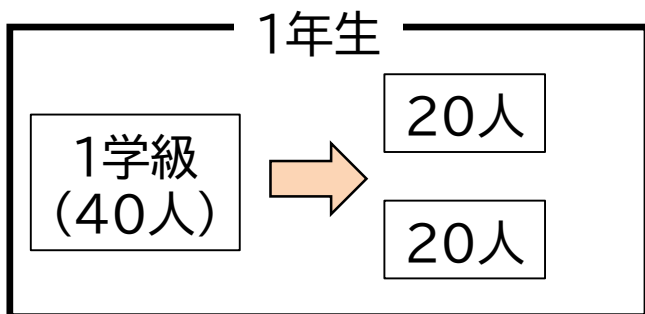
【小規模校における課題】

・小規模校においては、教員の配置が限定されることから、例えば、地歴では地理を履修できない、理科では物理を履修できない等、生徒の興味・関心に対応できない場合があり、進学希望者にとっては、履修科目によって進学の選択肢が狭められることにつながる可能性がある。

小規模校の指導体制について

- 現在、県内の多くの小規模校では、学力差が大きいことから、生徒の学習状況に応じた、きめ細やかな指導を充実させるため、1学級40人を分割した少人数指導を行っている。
- 1人の教科担当者が複数の学年を担当し、また同一学級内で進路別に対応した教科指導をせざるをえない状況。
- また、小規模校においては、大規模校に比較して教員1人あたりの担当科目数が多く、教材研究等にかかる時間がより必要となるなど、教員の負担増加につながっている可能性がある。

【少人数指導のイメージ(1学級校)】



※1学級を2つに分け、同時間に教科担任2人で指導している。

※1学級の人数は定員の40人としているが、実際の人数はこれより少ない場合が多い。

【授業の具体例<国語、教員2名の配置の場合>】

	1年生	2年生	3年生	担当科目数
A教諭	国語総合	古典(進学) 現代文	古典(進学) 現代文(習熟度)	4
B講師	国語総合	国語表現(就職)	国語表現(就職) 現代文(習熟度)	3

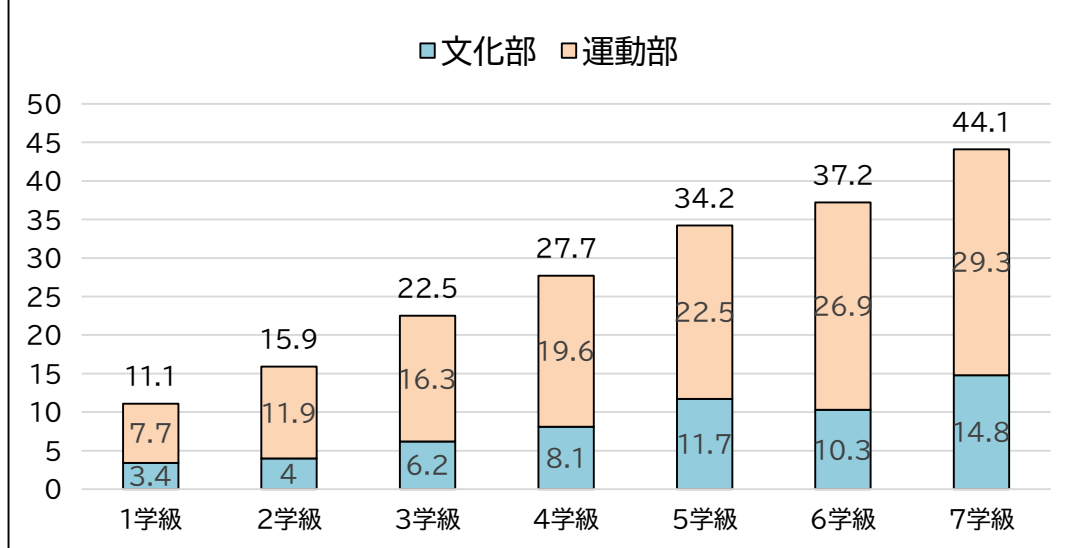
6学級規模になると、各学年に2名以上の教員が配置され、学年毎の授業が可能となり、担当する科目数は2科目程度になる。

小規模校の現状と課題について②

1学年1～3学級の小規模校の状況

	現状	課題
部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携のもと、インターハイに出場する等、活躍している部がある ・ 団体競技では、他校との連合チームによる活動機会の確保等の工夫が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の数が制限され、生徒の選択肢が少なく、中学校にあった部が高校にはない等、継続的な活動ができない状況が見られる。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒一人ひとりを把握でき、きめ細やかな指導体制となっており、不登校傾向の生徒の改善が図られるケースがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校不適応の生徒や特別な支援を要する生徒が多いことから、その対応も求められる等負担が大きい環境となっている。
地域との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奉仕活動やボランティア活動等を通して地域との連携が密に図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携にあたっては少ない教職員の中で対応する必要がある。

県立高等学校における部活動の開設状況 (R3)



【小規模校での部活動の設置例】

	部活動
A高校 (1学級)	<運動部> 弓道、硬式野球、ソフトテニス、バレーボール、自転車競技、山岳
	<文化部> 吹奏楽、JRC(青少年赤十字)、学芸
B高校 (2学級)	<運動部> バドミントン、硬式野球、ソフトテニス、バレーボール、陸上競技等
	<文化部> 吹奏楽、美術、茶道、総合文化